

## 2016（平成28）年度 清教学園中・高等学校 学校評価

### 1 めざす学校像

「神なき教育は知恵ある悪魔をつくり、神ある教育は愛ある知恵に人を導く」という建学の精神のもと、「一人ひとりの賜物を生かす」ことのできる質の高い人間教育を行うことを目指す。

- 清教学園の目指す人間像
- ①神を信じ誠実に仕える
  - ②真理を学び賜物を生かす
  - ③隣人と共に平和を築く

### 2 中期的目標：

教育の質的向上 ～清教「らしさ」・清教メソッドの確立、および運営の質的向上～

- 1 教育の質的向上
  - (1) 学力伸張を図る
  - (2) 社会自立・自己実現に向けた夢を育て、志を形成する
  - (3) 高い倫理観と Servant Leadership を育成する \*Servant Leadership：「リーダーである人は、まず相手に奉仕し、その後、相手を導くものである」という考え
- 2 生徒における学校生活の充実
  - (1) 特別活動の充実
  - (2) 生徒指導の充実
  - (3) 生徒支援
- 3 環境整備力の向上
  - (1) 施設の充実
  - (2) 外部環境への対応
  - (3) 情報の共有化と発信力の促進

### 【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [平成28年11月・12月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p>&lt;評価結果の高かった項目&gt;</p> <p>○生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒は充実した学校生活を送っている。 (中学生：95.8%、高校生：86.2%)</li> <li>・学力向上につながる授業が多い。 (中学生：88.1%、高校生：81.3%)</li> <li>・姉妹校による交流や語学研修・留学制度が充実している。 (中学生92.6%、高校生92.0%)</li> <li>・電子黒板や書画カメラは学習理解を深める。(*中学生のみ) (中学生：94.0%)</li> <li>・熱心に指導してくれる先生が多い。 (中学生：94.0%、高校生：87.9%)</li> <li>・家庭への連絡は適切に行われている。 (中学生：88.4%、高校生：86.2%)</li> </ul> <p>○保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒は学園で学ぶことに誇りを持っている。 (中学保護者：94.5%、高校保護者：88.8%)</li> <li>・規則遵守やマナー/美化意識等を高める指導がなされている。 (中学保護者：94.0%、高校保護者：93.0%)</li> <li>・熱心に指導してくれる先生が多い。 (中学保護者：91.5%、高校保護者：91.0%)</li> <li>・家庭への連絡は適切に行われている。 (中学保護者：87.9%、高校保護者：87.5%)</li> </ul> <p>○教職員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒は学園で学ぶことに誇りを持っている。(93.8%)</li> </ul> <p>&lt;評価結果の比較的低かった項目&gt;</p> <p>○生徒、保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動は勉強の時間が確保できるように配慮されている。 (中学生：75.9%、高校生：56.0%、 中学生保護者77.4%、高校生保護者：60.5%)</li> </ul> <p>&lt;全体総括&gt;</p> <p>SGHアソシエイト校としての取組等により、生徒においては、主体的な学習への意欲が向上し、学校生活の充実度が高まっている。他面、生徒の学習意欲の向上傾向に伴い、学習時間の確保において、部活動との両立が課題になると意識され始めている。</p>	<p>学校法人清教学園評議員会をもって学校関係者評価委員会とする。なお、評議員の選定は、寄附行為に基づき、学識経験者、学園卒業生、および学園教職員の3つの枠を設けた上で行われている。</p> <p>2016（平成28）年度については、2017（平成29）年3月25日に学校関係者評価委員会を開催した。</p> <p>&lt;意見&gt;</p> <p>【学識経験者】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「生徒は充実した学校生活を送っている」「生徒は学園で学ぶことに誇りを持っている」という点については、校風そのものに加え、SGHアソシエイトの活動が盛んになってきたこと、短期留学や半年留学など留学制度が教育方針のもとに充実してきたことが主なところであると思われる。引き続き努力されたい。e-ポートフォリオの活用も進んでいるとのことであり、新時代にふさわしい学力の向上に資すると期待できる。</li> <li>○高評価の項目が多くある一方で「知り合いや後輩に学園への入学を勧める」がなぜ比較的的低評価になっているのかについては、分析が必要だと考えられる。高校における文化祭がないことに理由があると聞くこともある。検討されたい。</li> <li>○これまで世間で評価されてきた本校の良い点としては、教員の熱心さや学力向上につながる授業の多さを感じてもらえているということである。大学進学で成果を出すには地道な日々の努力が必要であるが、これまで同様に生徒の力を伸ばしていくことを大切されたい。今回の評価結果では、部活動とのバランスを取るということに関する課題意識が出ているとのことであり、生徒自身の成長にとって必要な取り組みの内容やそのための時間確保の仕方について、改めて研究や話し合いを進めるのが望ましいのではないかと。</li> </ul> <p>【学園卒業生】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒が来校者等へ気持ちの良い挨拶する日常風景については、学園の教育成果として、隠れた財産だと高く評価してくださる方が多い。この良き伝統を守られたい。その意味では、学校評価アンケートにおいて「宗教・人権教育が重視されている」に関する教員回答でA評価の割合を高めることには、更に力を入れていただきたい。</li> </ul>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 教育の質的向上	(1) 学園の教育理念への十分な理解に基づく学業生活の推進	<p>ア. 礼拝への積極的な参加を促すことをはじめ、こころの教育のさらなる充実を図り、宗教・人権教育が重要視されていることが十分に理解されるように努める。</p> <p>イ. ソーシャルスキルトレーニング（コミュニケーションワーク）をはじめ、生徒の自己肯定感を高める取り組みを推進する。</p> <p>ウ. グローバルリーダー育成のプログラムをさらに積極化・多様化させ、生徒において国際交流活動が身近なものだとさらに認識されるように図る。</p>	<p>学校評価アンケートにおける結果を分析することを通じて評価するのを基本とする。</p> <p>ア. 建学の精神に関する理解、および宗教・人権教育の重要視する評価結果がどの評価対象者枠においても80%以上 (前年度→前者について生徒：中79.5%、高72.2%、保護者：中82.8%、高86.3%、教員：80.7%、また後者については生徒：中77.6%、高82.5%、保護者：中93.6%、高93.2%、教員70.4%)</p>	<p>ア. 建学の精神に関する理解については、中学生(87%)、および前年度に続き中高とも保護者からの評価が高い(中学90%、高校85.2%)。他方、教職員では低下(69.4%)した。高校生においては26%近くが低い評価である。学園の教育方針に触れる機会を多面にわたって増やす必要が更にある。また宗教・人権教育については、中・高校生で80%に到達し改善がみられる。他の対象者枠では教員においても高く評価されている(80～98%)。心の豊かさを求める期待の表れと捉え、引き続き努力を重ねる必要がある。(△)</p>
	(2) 学力向上をもたらす学習指導の工夫、および生徒の自主的な学習姿勢の育成	<p>エ. ICT等の積極的な活用をはじめ、生徒における授業内容の理解を促すような工夫を継続する。</p> <p>オ. 個々の生徒における学習到達状況を把握し、各人の学習意欲を受けとめられるような丁寧な指導に努める。</p> <p>カ. 生徒の自主的な学習姿勢および課題発見・解決力を育成するために図書館教育の機能をさらに有効化させる。</p>	<p>イ. 生徒が充実した学園生活を送っているかに関する評価結果がどの評価対象者枠においても80%以上 (前年度→生徒：中92%、高84%、保護者：中95%、高91%、教員97%)</p> <p>ウ. グローバル教育（語学研修や留学）が充実しているに関する評価結果がどの生徒・保護者においても85%以上 (前年度→生徒：中89%、高87%、保護者：中89%、高91%)</p>	<p>イ. 中学生95.8%・高校生84.2%だったことから、生徒から見た視点を更に大切にし、改善の進捗を進めるように努める。(○)</p> <p>ウ. グローバル教育については、取り組み内容がさらに充実し日常の学業生活にも工夫が施されたことから、とりわけ高校生において効果への実感が高まり、評価結果が90%を超えている(92% *前年度87%)。(○)</p>
	(3) キャリア教育の拡充を含む進路指導の充実化	<p>キ. 将来つきたい職業のイメージを喚起できるような機会を増やし、進路に関して明確な夢・目標が持てる指導を図る。</p>	<p>エ. 学力向上につながる授業が多い(主要5教科平均)および電子黒板の学習効果に関する評価結果がどの生徒においても80%以上 (前年度→生徒：中90.3%、高79.7%)</p> <p>オ. 「学校のみで十分な学力がつく」「理解が不十分なときに面倒を見てくれる」に関する評価結果が生徒・保護者において80%以上 (前年度→生徒：中84.2%、高70.4%、保護者：中69.9%、高66.9%)</p> <p>カ. 「図書館教育は知的関心を高める」に関する評価結果が生徒・保護者において80%以上 (前年度→生徒：中86.6%、高70.4%、保護者：中91.4%、高81.0%)</p> <p>キ. 「将来の進路・職業の適切な指導を行っている」に関する評価結果が生徒・保護者において80%以上 (前年度→生徒：中73.1%、高77.7%、保護者：中78.1%、高83.9%)</p>	<p>エ. 中学生は、前年度よりもやや数値が後退し、全体平均で88.1%という評価結果であった。数学・英語・社会は90%以上であったが、理科は80%台、国語は70%台にとどまった。しかし全体としてはまずまず高い数値と言える。一方、高校では前年度より数値が向上し、81.3%であった。数学・理科・社会は80%台であったものの、国語・英語は70%台であった。さらなる研鑽が望まれる。昨年度から取り組んでいるアクティブ・ラーニングを発展・継続させつつ、満足度向上に努めてゆきたい。電子黒板の効果については中学生の方が94.0%(昨年度93.4%)と高く評価しているが、高校でも79.9%(昨年度72.1%)と上昇傾向を示しており、今後は高校でのさらなる活用拡大が望まれる。(△)</p> <p>オ. 中学生においては83.8%と評価が高いが、高校生においては、前年度よりは改善したものの、まだ80%には届いていない(73.0%)。また、この観点は保護者の評価も低く、中学保護者74.9%、高校保護者65.7%にとどまっている。この評価を80%を上回るように改善していくことが課題である。2017年度からは、新高1での個人情報端末導入により、生徒一人一人の理解度に合わせて最適な教材を提供するアダプティブ・ラーニング用プログラムを使用することが可能となる。授業や補講・追試などに加えてこのプログラムを活用することで、この項目の改善を図りたい。(△)</p> <p>カ. 本校図書館「リブラリア」の積極的な取り組みが成果を上げ、中学生の評価は昨年の86.6%から93.9%に上昇した。高校は図書館から離れているという不利な面があり、昨年は70.4%にとどまったが、今年は79.9%と80%目前まで上昇した。引き続き取り組みを継続していきたい。(△)</p> <p>キ. 中学生では昨年度の73.1%から今年は79.0%へと改善した。一方で高校生では昨年度の77.7%から今年の76.4%へとやや低下した。卒業生進路講演会、大学の出張講義、大学見学ツアーなど、意欲的な取り組みを数多く展開しているが、意識の高い一部の生徒の参加にとどまる傾向がある。全生徒に対する、進路意識向上のための施策を打ち出す必要がある。ここでも、新高1における個人情報端末の導入により新しい取り組みが可能になると考えられる。(△)</p>

<p>2 生徒における学校生活の充実</p>	<p>(1) リーダーシップの育成にも資する特別活動の充実化</p> <p>(2) 社会性の高まるような生徒指導の充実化</p> <p>(3) 生徒が安心して学校生活がおくれるような生徒支援の推進</p>	<p>ア. 生徒が主体となって参加・運営する学校行事のあり方を追求していく。</p> <p>イ. 勉学と課外活動の両立を謳う本校においてはとくに、両者のバランスがきちんと確立されているということが求められており、学内外の関係者において納得してもらえる状況を作っていくのが重要である。</p> <p>ウ. 規則遵守の促進、美化意識の向上、いじめのない学校作りへの取り組みを通じて、学校生活における基本的環境を整えられるように図る。</p> <p>エ. 学校生活の基盤たる健康の促進を図るべく、生徒における健康意識の醸成に努める。</p> <p>オ. 生徒のメンタルヘルスの維持のため、親身になって対応にあたるように努める。それにあたっては、専門家との連携も進め、カウンセリングマインドの醸成をさらに図りたい。</p>	<p>ア. 「学校行事は生徒が積極的に参加できるように工夫されているか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても80%以上 (前年度→生徒：中 92.9%、高 71.5%、保護者：中 94.8%、高 88%、教員：85.9%)</p> <p>イ. 「部活動は勉強時間が確保できるように配慮されているか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても80%以上 (前年度→生徒：中 71%、高 52.7%、保護者：中 77.6%、高 65.3%、教員 57.9%)</p> <p>ウ. 「規則遵守やマナー・美化意識等を高める指導がされているか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても80%以上 (前年度→生徒：中 88.7%、高 77.8%、保護者：中 95.9%、高 91.9%、教員 80.7%)</p> <p>エ. 「保健教育を通じて健康管理の大切さが高まっているか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても80%以上 (前年度→生徒：中 84.1%、高 79.7%、保護者：中 86.8%、高 83.9%、教員：87.7%)</p> <p>オ. 「悩みや相談に親身になってくれる教員がいるか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても80%以上 (前年度→生徒：中 75.3%、高 73.4%、保護者：中 81.6%、高 82.5%、教員 91.2%)</p>	<p>ア. 中学生、保護者、教員においては高い評価を得たが(いずれも80%超)、高校生については約3割において課題があると思われており(30.4%)、前年度同様に低調になっている。文化祭の実施を含め、行事に多様性を施す工夫について改めて検討に着手したい。(△)</p> <p>イ. 前年度に引き続き、評価は高くなかった(いずれも80%未満)。多くの関係者がさらなる配慮を求めていることは明らかであり、けじめを大切にしながら、部活動の成果と学習面における指導との両輪が揃う教育活動の仕方を再度本格的に検討していく必要がある。(△)</p> <p>ウ. 前年度に引き続き、中高とも保護者から高い評価を得ている(いずれも90%超)。中学生においては前年に引き続き評価が高く(87.5%)、生徒の高い意識がうかがえる。今後は高校生においても80%を超える評価が得られる状況になっていくよう、さらに指導に努めたい(73.3%)。(△)</p> <p>エ. 前年度に引き続き、高校生を除いては全ての評価対象者枠において80%超の高い評価となっている。教員においては90%を超える評価となった。「保健だより」の発行や保健室周辺の掲示物の充実等、様々な工夫が功を奏したと言える。唯一、80%に達していないのが高校生で、75.6%という数値で、昨年度より若干ながら下がっている。要因の精査が必要である。</p> <p>オ. 保護者における評価が高い一方で(中学85.9%、高校82.1%)、生徒における評価は80%に届いていない(中学77.8%、高校77.0%)。中高とも、昨年度よりは数値が上昇して80%に近づいているとは言え、教員の自己評価(98.0%)との乖離がまだまだ大きい状況である。引き続き生徒の悩みとするとところをきちんと把握し、生徒本人が満足できるまで思いを聞き取ってあげられるよう、カウンセリングマインドの醸成に努めたい。</p>
----------------------------	--	---	--	---

<p>3 環境整備力の向上</p>	<p>(1) 施設の充実</p> <p>(2) 外部環境への対応</p> <p>(3) 情報の共有化と発信力の促進</p>	<p>ア. 自習室の環境をより良いものとし、生徒たちが自学自習の習慣を身につけられるように図る。</p> <p>イ. 利用しやすい食堂となるように改善を進める。</p> <p>ウ. 通学路の保守をはじめ、災害や不審者から生徒の安全を守るためのさらなる努力を重ねたい。</p> <p>エ. 保護者との連絡を密に行うことを通じて、生徒の学内外における状況を的確に把握し、健全な成長を促す環境形成を図りたい。</p> <p>オ. ホームページ等を通じた発信を強化するとともに、生徒たち自身への訴求力もあるような発信内容の作成を行なって、学内の活性化がさらに図れるように工夫を施したい。</p>	<p>ア. 「自習室は利用しやすいか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても80%以上 (前年度→生徒：中 65.4%、高 71.4%、保護者：中 75.9%、高 81.4%、教員 82.5%)</p> <p>イ. 「食堂は利用しやすいか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても80%以上 *高校のみ (前年度→生徒：高 72.3%、保護者：高 63.5%、教員 49.1%)</p> <p>ウ. 「災害や不審者から生徒を守るか」に関する評価がどの評価対象者枠においても80%以上 (前年度→中学生 80.8%、高校生 76.7%、中学保護者 87.9%、高校保護者 86.0%、教員 73.7%)</p> <p>エ. 「家庭への連絡は適切に行われているか」に関する評価結果が生徒・保護者において80%以上 (前年度→中学生 82.2%、高校生 84.9%、中学保護者 86.2%、高校保護者 89.1%)</p> <p>オ. 「ホームページや広報誌は学園の取り組みを知るのに役立っている」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても80%以上 (前年度→中学生 77.6%、高校生 61.1%、中学保護者 94.3%、高校保護者 89.2%、教員 84.2%)</p>	<p>ア. ここ数年の課題項目であったが、全ての評価対象者枠において前年度よりも数値が改善し、高校生を除いては80%を超える評価となった(生徒：中学 81.5%、高校 74.1%、保護者：中学 84.4%、高校 82.3%、中高教員 93.8%)。ラーニングコモンズ(LC)開設の効果と考えられる。中学生に比べて高校生のLC利用が少ないことが数値差にも表れていると言える。高校生の利用促進への工夫が必要である。</p> <p>イ. 前年度同様、全般に低い状況である(高校生 68.1%、高校保護者 57.7%、教員 65.3%)。メニュー面、収容スペース面、営業時間面のどれが大きな課題になっているか、更に調査の上、改めて改善を図りたい。</p> <p>ウ. 前年度同様、中学保護者(90.0%)、高校保護者(86.0%)と高く評価され、厚い信頼を寄せていただいている。また、中学生全体も83.3%と安心して学校生活を送っていると言える。しかしながら、教員(73.5%)、高校生(75.5%)では70%台半ばに止まっている。災害時対応のより実践的な訓練で意識を高め、生徒の安心・安全を守る環境づくりを向上させていきたい。</p> <p>エ. 前年度同様、全ての評価対象者枠において80%以上であり、90%を超えている評価枠もある(教員は100%)。保護者との連携について引き続き高い評価を得ている(中学 87.9%、高校 87.5%)。PTA活動が盛んであるということに関する高い評価結果を踏まえ、学校は今後も保護者との良好な協力関係を保ちつつ、保護者からのご理解ご支援のもと、生徒のためのより良い環境づくりに向けて努力を継続していきたい。</p> <p>オ. 中学保護者 96.0%、高校保護者 88.0%と高い評価をいただいている。SEIKYO TODAY や SGH TODAY 等の発信によって学園生活の日常に高い関心を持っていただくことに繋がっているようだ。中学生が82.4%と前年度から大きく改善したのに比して、高校生は66.1%と厳しい評価である。教員における85.7%という高評価は、教員自らが自分たちの教育活動の内容や生徒の頑張りの様子を発信することに、これまで以上に多く関わるようになってきた、ということを反映していると思われる。10代後半の生徒達の評価を参考に、今後もさらなる改善を図っていきたい。</p>
-----------------------	---	---	---	--

以上